







躍動

津田学園広報誌 2021.12 Vol.7

津田の夢 津田の信念 津田の友情









出会いと学びの広場 学校法人 津田学園

津田学園の教育

新時代に挑む教育活動

津田学園では、これからの時代を生き抜くための力を育む最先端の教育活動を展開しています。前号では、電子黒板やChromebook (ノートパソコン)・タブレット端末を活用した「教育ICT」の教育活動と、その一方でいつまでも変わらない教育の本質、心の柱を育む「道徳教育」の取り組みを紹介しました。今回は、探究・思考のプロセスを重視し、子ども達が主体的・対話的で深い学びを実現する「アクティブラーニング」、語学力はもちろん幅広い視野を持ち、異文化や多様性を理解、受容する「グローバル・マインド育成」の取り組みを紹介します。

アクティブラーニング

本学園では児童・生徒が主体的に授業に参加するアクティブラーニングを授業に積極的に取り入れています。授業では、まず目標を明示し、グループワークなどの児童・生徒同士の学びの活動を取り入れ、発表や振り返りを行うことで一人一人が主体的・能動的に取り組めるようにしています。児童・生徒は、こうした授業を通して主体的、対話的に深く学ぶことによって、より理解が深まり学力の向上につながります。また、これからの時代の変化とともに現れる新たな課題を解決する姿勢を身につけます。これらの課題は常に正解があるわけでなく、答えのない課題に向き合い他者と協働しながら解決することなど、これからの社会で求められる力を育みます。

本学園では充実したICT環境のもと、アクティブラーニングがどの授業でもごく普通に実践されています。今後とも、児童・生徒により質の高い授業が提供できるようアクティブラーニングを実践しながら授業改善に努めていきます。

■多様な学びでアクティブラーニングを展開

津田学園小学校では、児童同士のグループディスカッションやグループワーク、さらには体験学習・調査学習といった活動を積極的に取り入れ、アクティブラーニングを推進しています。児童同士がグループで話し合い学び合う活動において、ICTの力を効果的に活用しています。本校が利用しているGoogle Workspace for Educationのドキュメントやスプレッドシート、スライドなどのアプリでは情報を共同編集することができ、発表につなげたり考え方を共有したりすることが容易になります。この共同編集の機能は活動のスピードを上げるだけでなく、技能や知識の共有にも役立っています。5年生の社会科ではスライドの編集を通して知識を共有することに加え、「伝わりやすいスライド」を見つけて、良い部分を参考にする姿がありました。このように他者の考えを知ることや、自分の考えを伝えることに児童が積極的になり、主体的で対話的な学習が進み、互いに切磋琢磨しながら学ぶことにつながっています。









また、体験的な学びや調査活動なども各学年で進めており、特に5年生では「水辺の環境調査」という調査活動を実施しています。河川の生き物について事前学習を重ね、その上で学校前を流れる嘉例川で、生き物や水質の実地調査を行います。また校庭にあるビオトープでも水辺の生き物を観察し、その多様性について学びます。ここでもまたICTを活用して得た知識をまとめ、それらを共有することができます。この調査活動では大学教授やNPO法人などの専門家にも携わっていただいており、実際に現地で調査を行うことにより、児童が自ら課題を見出し、その解決に向けて能動的に学びます。

■さまざまな探究発表会を実施

津田学園中学校・高等学校(六年制)において、11月24日に津田学園小学校の4・5年生を招いて、「探究基礎講座」や「クラブ活動」で取り組んだ課題を発表する交流会を行いました。探究基礎講座の歴史グループの発表は「江戸時代とSDGs」。SDGsという言葉がなかった江戸時代にも「持続可能」な社会をつくるために「物を無駄にせず大切にする」「他に使い道がないか考える」などが徹底され、人々が環境にとても優しい生活をしていたことを紹介しました。サイエンスクラブは実験と調査を通した植物や魚類・両生類・キノコ類など研究実績の成果を披露しました。

発表した各グループは、小学生にも質問をして挙手を求めるなど、伝わりやすく参加しやすい雰囲気づくりをしていました。小学生は相槌を打ったり、挙手をしてくれたり、熱心に発表を聞いていました。

津田学園高等学校(三年制)においては、1年生が探究活動の発表会を実施しました。特に高い評価を得たのが、「スナック菓子の売り上げの法則」をテーマに探究活









動を発表したグループでした。生徒へのアンケート調査や実際に店舗を訪問し、店長に取材をするなどして、コンビニでのスナック菓子の売り上げの推移や売上をあげるための工夫、法則を調べて発表しました。その他にもさまざまなテーマで工夫された発表が多く見られました。これらは、日頃のアクティブラーニング型授業で育んだ思考力・判断力・表現力を発揮する良い機会となりました。

グローバル・マインド育成

グローバリゼーションの時代を生き抜くためには、語学力はもちろん、多種多様な価値観を認め、互いに伝え合い考えを理解できる力が求められています。本学園では、異文化に対して知識と体験の融合を目指したプログラムや海外でのグローバル体験・国際交流などを通じて異文化理解・尊重の念を育む取り組みを実施しております。本来なら実際の肌で感じる海外研修が計画されていましたが、コロナ禍が続く本年度も延期となっております。このような状況ではありますが、学びを止めることなく様々な取り組みに挑戦しています。オンラインを活用した海外在住のネイティブ講師による英会話レッスンや国際交流プログラムをはじめ、本校専任のネイティブ講師による少人数レッスンなど本物の英語や異文化に触れる機会も多く設けています。本学園では多彩な学びを通して、グローバル時代に対応した世界に羽ばたき、活躍できる人材を育てていきます。

■オンライン英会話の可能性

津田学園は海外在住ネイティブ講師による「オンライン英会話」レッスンを年間通して定期的に行っています。対象は津田学園小学校3年生から6年生児童、津田学園中学校・高等学校1年生から3年生、津田学園高等学校ESS部所属生徒です。英語で積極的に話す生徒もいれば、緊張して話せない生徒と様々ですが、どうにかしてネイティブ講師と会話をすることに一生懸命です。日本人と異なる文化背景、国民性を持ったネイティブスピーカーとマンツーマンで会話をします。児童・生徒たちも、英語を繰り返し使って、声に出す。自分の力で表現してみるということが自然な流れとなります。最初は戸惑っていた児童・生徒も、しだいに「こうすれば伝わるんだ。」「もっと簡単に考えればいいんだ。」と感心していました。遠隔交流を通した国際理解をオンライン英会話で実現します。









■ ICTがつなぐ国際交流

7・8月にわたり、津田学園中学校・高等学校(六年制)3・4年生はグローバル・マインド育成プログラムの一環として、「オーストラリア・オリンピック・コネクト・ともだち2021」に参加しました。交流相手校はクイーンズランド州中等学校の高校生です。本校生徒は英語で、相手校生徒は日本語で、オンライン交流を行います。自宅学習期間中もオンライン授業を行っていた生徒たちは、タブレット越しでの会話には慣れた様子。しかし、オンラインで海外の生徒とそれぞれの学習外国語を用いコミュニケーションをとるのは初めての試みです。画面上で、「はじめまして」の挨拶に始まり、学校紹介や自己紹介のあと、「日常生活の過ごし方」「東京オリンピックに寄せる思い」「東京オリンピックで楽しみにしている競技・種目」などのトピックについて、ディスカッションを行いました。同世代の生徒同士、初めてとは思えないほどうちとけた雰囲気でコミュニケーションをとることができました。この企画により、生徒たちの英会話を学ぶモチベーションが上がったように感じました。コロナ禍により、海外渡航が難しい中にも、ICTをうまく活用することで国際交流の歩みを止めない努力を続けてまいります。







■津田学園専属ネイティブ講師によるレッスン

津田学園では幼稚園から高等学校に至るまで、英語圏ネイティブ講師による英会話授業を行っています。幼稚園では、満3歳児以降の全園児が対象です。歌(チャンツ)や踊り(ダンス)、ゲームを通して、単語の発音から始まり簡単な会話ができるまで取り組みます。英語学習の入り口を楽しみながら慣れ親しみます。津田学園小・中・高等学校では、ネイティブ講師による英語授業を展開しています。授業以外でもコミュニケーションの機会を設け"生きた"英語が学べる環境を用意しました。津田学園中学校は、課外活動においてもネイティブ講師と触れる機会を設けています。中学校課程『探究基礎』では、「英語の会話力を磨こう」という講座を担当し、受講生徒からは「英語を実際に使える機会が増えた。」と好評です。クラブ活動では、サッカー部の顧問として練習に参加。生徒は英語で技術指導を受けています。津田学園高等学校は、8月3日から6日の4日間、ネイティブ講師によってイングリッシュキャンプを実施しました。生徒2人とネイティブ講師で行うグループ英会話レッスンです。海外渡航時の様々な場面を想定し、実践的な英語を学ぶ機会となりました。参加した生徒からは「短い期間で集中的に学べた」との声が聞こえました。









津田第一幼稚園 津田第二幼稚園 津田三滝幼稚園 津田桑名幼稚園 津田大山田幼稚園



https://tsudagakuen.ac.jp/yochien/





「子ども達の学びを保障する」ということは、私たちの重要な使命であると考えています。幼稚園は、子ども達にとって初めての社会経験の場であり、たくさんの友達と出会う場でもあります。多くの出会い・ふれあい・遊び・心が動く、その瞬間に、学びに向かう意欲が生まれます。

コロナ禍においても安全に配慮しながら、さまざまな遊びや活動を通して、一人一人が心身ともに調和のとれた人になるよう、創意工夫し日々の保育を実践しております。ご家庭との連携を大切にしながら、これからの未来を担う子ども達の成長を精一杯応援します。

津田第一幼稚園

四日市市笹川1丁目106-2 TEL:059-321-8836

七夕鼓隊を発表しました

7月5日、7月誕生会・七夕まつりの日に年長児が鼓隊の演奏を披露しました。中太鼓・小太鼓・大太鼓・シンバル・デュオの太鼓チームと指揮者・ポンポン・カラーガードの踊りチームで構成されています。太鼓はバチの持ち方や演奏の仕方など一つ一つ覚えていきました。踊りは振付けを友達や先生と共に考え、作り上げていきました。音楽をよく聴き、太鼓の音や振付けを合わせる楽しさを味わいました。本番当日は、演奏するグループを2つにわけて、それぞれ2回の演奏をお友達や先生の前で披露しました。演奏後には大きな拍手をもらい、笑顔が輝いていました。





津田三滝幼稚園

四日市市川島町6513 TEL:059-321-8311

夏祭りを楽しみました

子ども達が楽しみにしていた夏祭り。従来は父母の会と共催で行っていますが、今年も感染症対策のため、6月30日、7月1日、2日の3日間、学年ごとに分かれて園児のみで行いました。夏祭りの準備では、提灯や飾りを制作し、テラスやホールに飾っていきました。また、屋台で売るかき氷や焼そばなどは異年齢保育(縦割り保育)で制作をしました。祭りの当日は、さかなつり、金魚すくい、ヨーヨーつりなど楽しいコーナーがいっぱい。年長児が「いらっしゃいませ」と元気な声で、店員になりきる姿が見られました。コーナーで遊んだ後は、ホールで『津田学園音頭』を踊りました。夏祭りの雰囲気を感じながら楽しむ、子ども達の笑顔をたくさん見ることができた3日間でした。





津田第二幼稚園

四日市市笹川7丁目52 TEL:059-321-8011

消防署で防災体験をしました

5月13日、年長児が四日市市消防本部北消防署の防災教育センターへ行きました。火事の煙を実体験できる煙体験室では、模擬家屋内に入り、マスクの上から口と鼻をふさぎ、安全な避難方法を学びました。さらに消防車両や救急車両を見学し、実際に消防車のホースを持って重さを体感することもできました。間近で緊急車両などを見学して、消防士に憧れを抱く子もいたようです。セミナールームでは、防火に関するDVDを視聴しました。短い時間でしたが、防災に関する知識を学び、充実した時間が過ごせました。





津田桑名幼稚園

桑名市清竹の丘9 TEL:0594-22-261

緑豊かな高台、清竹の丘に移転します

すべての部屋からは天然の芝生におおわれた、四季折々の花々が咲く園庭が見渡せます。このような光・風・季節を感じることができる環境は、豊かな感性を育みます。また、様々な遊具や築山、砂場や水遊びができるプールなども整備されており、遊び体験を通してバランスの良いからだや運動能力の基礎も育みます。さらに、木目を基調とした明るく開放感がある保育室は、ユニバーサルデザインの認証を受けており、子ども達目線の安心安全なつくりとなっています。未来にはばたく子ども達を育み、地域と共生する幼稚園として、新たな歴史を刻んでいきます。





TEACHER'S VOICE



絵画指導を通して 絵画指導講師 足立徹

津田学園で絵画指導をはじめて今年で43年になります。 子どもは絵を描く事が大好きです。点々やなぐり描きから始まり、やがて、まるから手足のようなものが出て太陽や人間が描けるようになると、自分の描いたものを指し示し、これはなに・・と教えてくれるようになります。 さらに空と地面が出てくると表現も多様になってきます。 女の子はお花やかわいい動物など、男の子はアニメの ヒーローや乗り物などが大好きです。子どもが描くもの はそのままその子の世界、成長に伴って世界も広がりま す。幼稚園は成長の基礎、この基礎の上に、これからさ まざまに豊かなものが積み重なっていくことを願って毎 回の指導にあたっています。

津田大山田幼稚園

桑名市野田5丁目3-12

大型紙芝居を楽しみました

津田学園の絵画指導講師である足立徹先生がオリジナルの創作紙芝居を作成して、「ニッポン髙笑い一座」竹守伸一氏に熟練した話術で口演していただきました。年少・満三歳児は「まるさんかくしかく」、年中児は「カミナリかんた」、年長児は「スーパー山姥」など、年齢にあった紙芝居を楽しみました。普段の紙芝居と違い、昔ながらの街頭紙芝居を彷彿とさせる身振り手振りを交えながら、また、おもちゃのトランペット・太鼓を使い効果音で雰囲気がつくられました。竹守さんの話術で子ども違は、お話の世界に引き込まれていました。最後に足立先生からあるあるクイズを出してもらいました。子ども達が普段使っている身近な教材を絵に描いてもらい「のり」「お道具箱のパンダ」などと答え、楽しい時間を過ごしました。





TEACHER'S VOICE

書道指導講師 榊田白蓮

初心忘るべからず

年長クラスの書道を担当させていただいて26年目になりました。はじめての指導以来、何人もの園児の皆さんとの出会いの中で、未熟だった私も成長させていただいたのだと振り返ります。



私が書道を担当した初年、姿勢を整え、純粋な瞳で筆を持つ貴い姿に、自分の心が洗われるような気持になったことを、今でも鮮明に覚えています。

皆さんの作品は、元気で大胆なもの、美しいもの、丁寧なもの、楽しいもの、、、まるでその人そのものの様に、どれも素晴らしい作品です。これから色々な局面が訪れた時、壁にぶつかった時、初心と自分にしかない個性を信じて心豊かに突き進んでください。皆様のご活躍を祈っています。

津田スポーツクラブ

https://tsudagakuen.ac.jp/sports/

TEL:0594-31-1161



津田サッカークラブ 津田テニススクール 津田こども基礎体育クラブ 津田バレエクラブ 津田四日市リトルシニア 津田新体操クラブ

津田スイミングスクール https://tsudagakuen.ac.jp/swim/ 大山田校 桑名市野田5丁目3-12 TEL:0594-31-1161 桑名校桑名市大字東方266-1 TEL:0594-22-2610 四日市校四日市市久保田2丁目11-13 TEL:059-355-7771

6月16日に第29回津田バレエの発表会を四日市市文化会館で開催いたしました。幼稚園児の可愛らしい踊り、小学生から大人までの方々は日頃の練習の成果を発揮し、芸術的な踊りが披露されました。また、スイミングスクールでは7・8月に短期水泳教室や特別練習会などのイベントを開催しました。今年の短期水泳教室は、新たに2日間のおためし体験コースを設定しました。初めての方にも、たくさん参加していただくことができました。スポーツクラブイベントとして、7月23日に「アドベンチャー体験学習」を開催し、南知多グリーンバレイへ行ってきました。天候にも恵まれ、ウォーターアスレチックや巨大迷路などで楽しみました。



進学塾津田学園

https://tsudagakuen.ac.jp/juku/

TEL:059-321-8221



本部・笹川スクール 四日市市笹川1丁目123 大山田スクール 桑名市野田5丁目3-12 桑名駅前スクール 桑名市大字東方266-1 えんぴつ教室(年中・年長児) カンガルー教室(小学生・中学生) アクティブ イングリッシュ スクール(幼児・小学生)

昨年度はオンラインでの授業も試みましたが、今年度はあらためて人と人が対面で教え学びあうことに重心を置いています。津田アクティブイングリッシュスクールでは4年前から新しいアメリカ人講師を招き、英語を通して文化、国民性を学ぶ多くの会員でにぎわっております。英語学習への関心の高さを肌で感じております。毎日、たくさんの子ども達がこの学び舎でさまざまなチャレンジを行っています。今後とも地域の皆様に愛されるスクールであり続けられるように努力していまいります。



津田学園小学校





津田学園小学校ではコロナ禍においても児童の学びが行き詰まることのないよう、今年度もICTの力を最大限活用した授業を推し進め学習や行事を充実させてきました。体験学習においては、特に自然の中から学ぶことを重視しており、それらを系統的にまとめた本校独自の「自然教育カリキュラム」を学びの大きな軸として、各学年でさまざまな取り組みを行っています。河口や干潟での生き物の観察や、川の源流域との違い、雪に関する学習やビオトープを利用した水辺の生き物の調査など、机上の学習だけでは深めることのできない五感を働かせた実体験こそが、本校の学びの大きな特徴であり、今後もこのような学びをより深めていきます。

● 3年生が山の学校に行きました

6月1~2日、菰野町にある朝明茶屋キャンプ場で3年生が「山の学校」を行いました。今年は感染症対策のため、日帰り2日間のプログラムで実施しました。1日目はマスつかみ体験とマスの調理体験をしました。マスつかみでは、川に放たれたマスを、懸命につかまえる子供達の姿が見られました。マスの調理体験では、キャンプ場管理人さんの指導のもと、つかまえたマスのツボ抜きに挑戦しました。その後、マスをおいしくいただきました。そして、川に入り、水の循環について学びました。子供達の中から「海水はしょっぱいのに、川の水がそうでないのはなぜか?」という問いが生まれました。

この山の学校は自然の中から学べるさまざまなことを系統化した本校独自の「自然教育カリキュラム」の一環として実施しています。





● 座禅指導

藤原町にある聖宝寺の和尚である中井泰山先生をお招きして、全学年が毎年1回座禅体験を行っています。今年度は5月25日に3・4年生、6月9日に2・5年生、6月16日に1・6年生が指導を受けました。はじめにお話をいただいたあと、呼吸を確認します。「ひと一つ、ふた一つ・・・」と心の中で数えながら息をはきだし、「つ」のタイミングで息を吸い込みます。深呼吸のように「吸って吐く」ではなく、「吐いて吸う」呼吸であることを確認します。確認が終ったら実際に座禅を組みます。じっと集中するだけでなく、希望者は警策でたたいてもらう体験もできます。心が落ち着く日本の伝統文化が体験できるよい機会となっています。





● ウォークラリー大会

津田学園小学校では、児童の会を中心に企画し、当日の運営も行うイベントの一つにウォークラリー大会があります。簡易な地図を頼りにチェックポイントを巡り、チームで協力してクイズを解いたり、ゲームにチャレンジしたりして得点を競うものです。例年は、4年生以上が対象の行事でしたが、「全校児童が楽しめる学校行事がしたい」という児童の会の思いから、今年は縦割り班を編成して全学年で実施しました。このような異年齢との交流活動によって期待できるのは、社会性の高まりです。上の学年の児童にとっては、自分の働きかけや行動が下の学年の手本になり、役に立ったという喜びを感じられると自己肯定感の高まりにもつながります。逆に下の学年の児童は上の学年のしてくれたことに感謝の心を抱き、あこがれの気持ちをもつことによって自分の成長につながればよいと思います。





● 親子ふれあい教室

毎年、保護者の方と子供達が一緒に芸術鑑賞をする「親子ふれあい教室」を開催しています。今年度は子供達のみでの開催となりました。7月1日、小林紀子パレエシアターにお越しいただき、パレエの公演を鑑賞しました。間近で観るパレエの動きに、子供達はじっと見入っていました。また、5年生は事前のワークショップを受け、プロのダンサーと一緒に演じました。初めての動きに苦戦しながらも、本番では練習の成果を発揮していました。本物の芸術に間近で触れることのできる貴重な機会として、毎年子供達はとても楽しんでいます。







津田学園小学校 主任教諭 長谷川智哉

津田学園小学校で勤務し始めて10年以上が経過しました。相変わらず、反省・勉強の日々です

現在、教育界は大きな変革の時期を迎えています。学校のICT環境は大きく変わりつつあります。その中で、本校ではいち早く1人1台端末の環境を整え、実践を重ねてきました。授業支援アプリ「ロイロノート」を使用した実践、Googleワークスペースの活用、オンライン英会話など新

しいことにチャレンジしています。だからこそ、試行錯誤の 日々です。

さて、本年度は3年生を担任しています。本校の伝統であるカブトムシの飼育は今も受け継がれています。休み時間になると、児童は飼育ケースからカブトムシを取り出して、様子を見たり、エサである昆虫ゼリーの交換を行ったりしています。伝統を次へとつないでいくこともまた私の使命の一つであると考えています。創造と継承が今の私のテーマかもしれません。

桑名市野田5丁目3-12 TEL:0594-31-6311





今年度より新しい学習指導要領が施行されました。「知識及び技能の習得」「思考力、判断力、表現力の育成」「学びに向かう力、人間性等の涵養」が謳われています。本校では、これに先駆けて教育ICTを活用したプレゼンや話し合い、アクティブラーニング型授業の推進を図るなど主体的に学べる環境を整備してきました。人間性の涵養においても偉人を題材とした道徳教育の充実をはじめ、一流の講師をお招きする「アカデミア津田」では多様な専門的な学びを提供しています。このような取り組みの結果、新しくなった大学入試においても着実に成果を収めています。これからも変化を恐れず新たな取り組みに挑戦していきます。

■ SDGs教材「iina」を寄贈していただきました

本校に水谷精工株式会社様から大垣共立銀行の地域応援私募債を通じて、中学・高校向けのSDGs教材「iina」を寄贈していただきました。9月8日、水谷精工株式会社、大垣共立銀行の関係者の方々に来校していただき、贈呈式が行われました。生徒会から会長と副会長が代表で出席してお礼の言葉を述べました。贈呈式の後は、その教材の「14.海の豊かさを守ろう」を使い、2年生で実際に授業を行いました。2年生も以前からSDGsについて学習していましたが、生徒の感想から「海の生き物がなぜプラスチックごみを食べてしまうのかの理由を理解することができた」「サンゴの白化について知ることができた」など、これまで以上に詳しく学べた様子がうかがえました。これからこのSDGs教材を活用して学校全体でさらに深く学び、地域社会にも発信していきたいと思います





■ 全学年でネットモラルを学びました

4月14日、全学年で Google 監修の教材でネットモラルの授業を行いました。低学年では安心・安全に活用する方法を学び、ネット社会では悪いことをしたり、人を傷つけたりする人がいることを認識し、どのように身を守るかということを考えました。また、トラブル対処方法として「信頼できるサイトを見分ける方法」、「情報が本当に正しいか確認する」など、意見を出し合いました。高学年ではインターネットの便利なところと危険性を考えました。便利なところは「情報がすぐ手に入る」「世界の人々と情報交換することができる」などがあり、危険なところは「間違った情報が出回る」「知らない人とつながってしまう」など多くの意見が出ました。ポイントとして「目に見える情報をチェック」「他の情報源もチェック」「1 歩立ち止まってみる」ということを意識することの大切さを学びました。





■ 探究フォーラム2020で優秀賞を受賞しました

みえ探究フォーラムは、探究活動の研究をもとに他校の生徒と交流する三重県内の中高生のための学会です。本校からは中学2年生の3名が、昨年の夏休みに松阪市での染物・織物体験をもとに探究した「植物にとっての色素の重要性」について発表しました。審査は口頭・ポスター部門ともに映像を撮り、それを2月13日~21日の間、オンラインで視聴・審査する形での開催となりました。発表の撮影を開始した当初は「言葉で伝える」ということを意識して発表できませんでしたが、練習を重ねることによって良い発表に仕上がりました。また、見やすいスライド作りを心掛け、意欲的に研究と向き合うことができました。その結果が4月に発表され、優秀賞を受賞することができました。今後はさらに課題の設定と理解をより深く行い、研究と発表を進めていきます。





■ 「仲間の学校」で学ぶ楽しさを体験しました

4月16~17日の2日間、1年生が中学校生活最初の宿泊行事を行いました。最初のプログラムは三重県環境学習情報センターを訪れ「水質チェック」について学びました。クイズや実験を交えながら、生活排水が海や川にどのような影響を与えているか、どのようなことに気をつければ良いのかを考えました。その後、宿泊先の四日市市少年自然の家で、ソーシャルスキルトレーニングを行い仲間との関わり方を教わりました。夕方からは飯盒炊飯でカレーを作りました。みんなで協力しながら、どの班も美味しいカレーを作ることができました。二日目のプログラムは焼き杉コースターの制作です。自分達でデザインして、木の板を加工して作りました。2日間の自然の中での活動で、様々なことを学びました。そして、何よりもこれから共にする仲間との素敵な思い出つくりが出来ました。









津田学園中学校・高等学校 教頭 岡田伸司

津田学園高等学校の1期生を担任した時のことが、ついこの間のことのように思い出されます。当時の生徒たちはもう50歳。私は25年前に6年制に移りましたが、社会や時代の変化とともに人々の生活もかなり変化したように思います。ただ、1つ変わらないもの。それは生

徒の皆さんたちの純粋な姿勢です。その姿に日々励まされ毎日を過ごしています。「Live as if you were to die tomorrow. Learn as if you were to live forever.」明日死ぬかのように生きよ。永遠に生きるかのように学べ。(ガンジー)





未来を切り拓く人材を育成するために、様々な取り組みを実践しています。本校の教育の根底にあるのは道徳教育です。「偉人に学ぶ」をテーマとして他者に対する思いやりの気持ちや感謝の心などを育むことにより、社会に貢献できる人材の育成を目指しています。教育ICTでは、今年度の入学生から生徒全員がChromebookを持つことで、最先端のICT機器を活用した双方向型の授業を行っています。グローバル・マインド育成の取り組みでは、グローバル社会において活躍できるような人材育成を目指して革新的な実践を行っています。また、アクティブラーニング型授業を活用した授業改善に取り組んでいます。授業改善の成果として、令和2年3月以降の四年制大学への進学率がそれまでと比較して飛躍的に大きく上昇しています。これからも未来を見据えた教育活動を展開していきます。

☑ Chromebookを導入しました

今年度の入学生より、Chromebook を1人1台導入しました。Chromebook を活用することによって、疑問に思ったことをすぐに調べることができ、模試などの結果はアプリを使っていつでも見ることができます。また、スタディサプリの授業動画を見ることも簡単にできます。探究活動などの調べ学習の際も、Chromebook が活躍します。わかったことを「Classroom」というツールでメンバーと共有したり、スプレッドシートにまとめたりとChromebook を有効活用している様子がみられます。





☑ 三重県総合体育大会で男女とも総合5位に輝きました

令和3年度の三重県高校総体が実施され各部において優秀な成績を収めました。その結果、今年度の総合成績が全日制の部で男子・女子ともに第5位となりました。7月14日に代表生徒が三重県勤労者福祉会館にて表彰されました。



■優勝

水泳部男子・女子団体ゴルフ部女子 団体

男子·女子 個人

■準優勝 馬術部 男子·女子 個人

硬式野球部 硬式テニス部 男子団体 ■第4位女子サッカー部

■ベスト16 男子サッカー部 女子バレーボール部 女子バスケットボール部

☑ 2年ぶりに遠足を実施しました

7月5日に遠足を実施しました。コロナウイルス感染拡大の影響で、昨年度は実施することができなかったため、2年ぶりの実施となりました。1年生は伊勢神宮(おかげ横丁)へ、2年生は飛騨高山へ、3年生は鳥羽水族館へ

でかけました。当日は天候も心配されましたが、現地での自由散策の時間等では見聞を広め自然や文化に親しむ様子が見られました。

また、生徒からは「グループ行動でより仲良くなることができた」などの言葉が聞かれました。







☑ 分散登校と遠隔授業を実施しました

8月27日からの緊急事態宣言の発出に伴い、本校では分散登校と遠隔 授業を併用して行いました。遠隔授業では、Googleミート(ビデオ会議 ツール)を活用してオンラインでのホームルームや授業のライブ配信を 行いました。また、1日のうち2時間分の授業については、各教科からス タディサプリの課題が配信され、それに取り組む時間も設けました。本

校では教育ICT機器を用いることで、夏休みが明けてから学びを止めることなくスムーズに学習を進めることができました。







TEACHER'S VOICE



津田学園高等学校 総括主任教諭 野村美和

教員の仕事の魅力は色々ありますが、その中でも「素敵な出会いをもたらしてくれること」が一番の魅力だと私は考えています。教員になって29年。縁あって、たくさんの生徒との出会いがありました。特に印象に残っているのは、1ランク上の大学の希望進路実現を果たすために放課後の課外、資格取得のための勉強に取り組んだ生徒で、卒業式の当

日「先生と出会えてよかった」「先生が担任だったから頑張ることができた」「ありがとうごさいました」と言われたことです。私にとって教え子は宝物で、多くの刺激を受けながら成長できたこと、本当に感謝しています。これからも出会いを大切にし、生徒と一緒に成長し続けます。津田学園は、出会いと学びの広場として最高の学校です!